

令和7年度広島県特別支援学校教育研究会 事業報告

1 会員数 1,007名

2 趣旨

障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、一人一人の教育的ニーズを把握し、そのもてる力を高め、学習上又は生活上の困難を改善・克服するため、適切な指導や支援を行えるよう専門性の向上を図り、今後の特別支援教育の一層の充実を図る。

3 研究主題

特別支援教育の視点に立った「個別最適な学び」

4 活動内容

(1) 教育研究会資料の作成等

- 特別支援学校教育研究会ホームページによる研究成果の報告
- 令和7年度広島県特別支援学校教育研究大会 大会要項等の発行

(2) 令和7年度広島県特別支援学校教育研究大会の開催

5 研究成果

本研究会は、広島県内の特別支援学校の教育の充実を目的として、平成12年に発足し、令和7年度で26年目を迎えた。発足当時、五つの障害種別で活動をしていたが、平成17年度からは統合し、時代の変化に対応しつつ、会員のニーズに応じて、特別支援学校における今日的課題をテーマとした教育研究に取り組んできた。

本研究会では令和7年度の研究主題を「特別支援教育の視点に立った「個別最適な学び」」とした。本研究では、一人一人の幼児児童生徒の可能性を最大限に引き出すことを目指して、主体的・対話的で深い学びや個々の障害特性や発達段階に応じた指導・支援の在り方について研究を進めた。

本年度も、各校で研究を進め、12月26日に研究大会を広島市にて実施した。研究大会では、4校による研究発表や、独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 情報・支援部 総括研究員 小林 秀之氏には、「令和の中でも大切にしたい特別支援教育」と題して講演をいただいた。

アンケートによる参加者の意見からは、肯定的評価が100%となり高い評価を得ることができた。今後も、各会員の更なる専門性の深化を図りながら、本研究会及び広島県の特別支援学校の教育のより一層の充実・発展に繋げていきたい。